

私の姉妹都市派遣

下吉田中学校 渡邊航佑

私がこの姉妹都市派遣事業に行くことができると決まった際、私は嬉しさや胸の高鳴りとともに同じくらいの不安が心の中にありました。しっかりと言葉が伝わるか、うまくやっていけるかなどたくさんの不安を当日まで抱えていました。

そして迎えた当日、私は海外はおろか飛行機に乗ることも初めてだったので心配でした。長い十時間のフライトが終わり、デンバー空港ではどこまでも広がる広大な土地に地平線が見え、とうとうついたのだなと実感がわきました。その日は何時間も飛行機に乗っていたのに日付が変わっていないという不思議な感覚や疲れからすぐに眠ることができそうでした。

そして二日目、ホストファミリーとの対面です。ここから私のホームステイ生活が始まりました。初日と二日目はなかなか聞き取れませんでしたでしたが質問に答えたりホームステイ先の子供と会話をしたりしていく中で確実に聞き取れるようになっていくのを実感できました。ホストファミリーの方々が日本のことが大好きで時折日本語で会話をすることもありました。家ではホストファーザーやその子供と野球をしたりバドミントンや鬼ごっこをしたりと楽しく過ごすことができました。その中で親睦を深めることができました。

観光では富士山よりも高いパイクス・ピークに上ったり、オリンピックミュージアムやガーデン・オブ・ザ・ゴッズなどに行ったりしました。たくさんの場所に行った中で日本とそう変わらないような景色や街並みも見えました。また、日本と全く違うところもあり、とても面白く、よく違いを考えるいい機会にもなりました。富士吉田市よりも大きい建物が多く家一つ一つもとても大きく土地の違いを実感しました。大きい建物が多いながら自然も豊かできれいな景色を数多く見ることができました。

アメリカでの生活も一日がたてば不安や緊張もなくなり、楽しく過ごすことができました。ホームステイ最終日には寂しい気持ちが大きく、たくさんかかわった七歳と十歳の子供とそのお父さんと最後に写真を撮り、一生忘れることない大切な思い出になりました。いつかまた会いたいと思うほどよくしていただきました。最終日も一緒に行ったメンバーと思い出を語り合い、行きのフライトよりも長いフライトを終えて日本へ到着しました。

今回の派遣事業では貴重な経験をたくさんすることができました。改めていろいろな人の支えの上自分は生きているのだということを実感する機会にもなりました。家族はもちろん富士吉田市や、受け入れて下さったホストファミリーの方々、コロラドの人たちなどたくさんの支えがあったからこそこの経験だと思います。この感謝を忘れずに今後、その恩を返せるように頑張っていきたいです。